



L コマンド

この章では、L で始まる Cisco Nexus 1010 コマンドについて説明します。

line console

コンソール コンフィギュレーション モードを開始するには、**line console** コマンドを使用します。コンソール コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

line console

no line console

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、コンソール コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line console
switch(config-console)#
```

line vty

ライン コンフィギュレーション モードを開始するには、**line vty** コマンドを使用します。ライン コンフィギュレーション モードを終了するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

line vty

no line vty

シンタックスの説明 このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ライン コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# line vty
switch(config-line)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
	line console	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。

logging console

コンソールセッションへのメッセージのロギングをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションへのメッセージのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

シンタックスの説明

severity-level ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。
重大度レベルは次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムは使用不能
1	アラート	すぐに措置が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラーの状態
4	警告	警告の状態
5	注意	正常だが注意を要する状態
6	情報	通知目的のメッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、コンソールセッションへの重大度レベル 4 (警告) 以上のメッセージのロギングをイネーブルにする例を示します。

■ logging console

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 4
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。

logging event

インターフェイス イベントをロギングするには、**logging event** コマンドを使用します。イベントのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}

no logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}

シンタックスの説明	link-status	すべてのアップ/ダウンおよびステータス変更のメッセージをロギングします。
	trunk-status	すべてのトランク ステータス メッセージをロギングします。
	default	デフォルトのロギング コンフィギュレーションが使用されます。
	enable	インターフェイス ロギングがイネーブルになり、ポート レベルのロギング コンフィギュレーションは無視されます。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴	リリース	変更内容
	4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、インターフェイス イベントをロギングする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
	logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
	logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
	logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
	logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
	logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
	logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。

logging level

定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのログをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。メッセージのログをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level *facility severity-level*

no logging level *facility severity-level*

シンタックスの説明

<i>facility</i>	ファシリティの名前を指定します。
<i>severity-level</i>	ログするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がログされます。 重大度レベルは次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムは使用不能
1	アラート	すぐに措置が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラーの状態
4	警告	警告の状態
5	注意	正常だが注意を要する状態
6	情報	通知目的のメッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level all level_number**

メッセージのロギングが可能なファシリティを一覧表示するには、次のコマンドを使用します。

- **logging level ?**

例

次に、AAA ファシリティからのメッセージのうち重大度レベルが 0 ~ 2 のもののロギングをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging level aaa 2
switch(config)#
```

次に、ライセンス ファシリティからのメッセージのうち重大度レベルが 0 ~ 4 のもののロギングをイネーブルにしてからライセンスのロギング コンフィギュレーションを表示する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging level license 4
switch(config)# show logging level license
Facility           Default Severity      Current Session Severity
-----
licmgr              6                      4

0(emergencies)     1(alerts)             2(critical)
3(errors)          4(warnings)           5(notifications)
6(information)     7(debugging)
```

```
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。

logging logfile

システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]

no logging logfile [logfile-name severity-level [size bytes]]

シンタックスの説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを保存するログ ファイルの名前を指定します。																											
<i>severity-level</i>	ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。 重大度レベルは次のとおりです。																											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル</th> <th>名称</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>緊急</td> <td>システムは使用不能</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>アラート</td> <td>すぐに措置が必要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>クリティカル</td> <td>クリティカルな状態：デフォルト レベル</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>エラー</td> <td>エラーの状態</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>警告</td> <td>警告の状態</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>注意</td> <td>正常だが注意を要する状態</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>情報</td> <td>通知目的のメッセージ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>デバッグ</td> <td>デバッグ中にだけ表示される状態</td> </tr> </tbody> </table>	レベル	名称	定義	0	緊急	システムは使用不能	1	アラート	すぐに措置が必要	2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル	3	エラー	エラーの状態	4	警告	警告の状態	5	注意	正常だが注意を要する状態	6	情報	通知目的のメッセージ	7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態
レベル	名称	定義																										
0	緊急	システムは使用不能																										
1	アラート	すぐに措置が必要																										
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル																										
3	エラー	エラーの状態																										
4	警告	警告の状態																										
5	注意	正常だが注意を要する状態																										
6	情報	通知目的のメッセージ																										
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態																										
<i>size bytes</i>	(任意) ログ ファイルのサイズをバイト単位で、4096 ~ 10485760 の範囲で指定します。デフォルトのファイル サイズは 10485760 バイトです。																											



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、LogFile という名前のログ ファイルを設定してシステム メッセージを保存し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# config t
switch(config)# logging logfile LogFile 4
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。

logging module

ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始するには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージを停止するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module [*severity-level*]

シンタックスの説明

severity-level

ロギングするメッセージの重大度レベルです。重大度レベルが指定されていない場合は、デフォルトが使用されます。重大度レベルをたとえば 4 に設定すると、指定したレベル以上の重大度のメッセージ (0 ~ 4) がロギングされます。重大度レベルは次のとおりです。

レベル	名称	定義
0	緊急	システムは使用不能
1	アラート	すぐに措置が必要
2	クリティカル	クリティカルな状態：デフォルト レベル
3	エラー	エラーの状態
4	警告	警告の状態
5	注意	正常だが注意を要する状態 (デフォルト)
6	情報	通知目的のメッセージ
7	デバッグ	デバッグ中にだけ表示される状態



(注)

レベル 0 が最高重大度レベルです。

デフォルト

ディセーブル

モジュール メッセージのロギングを開始する場合に、重大度を指定しないと、デフォルトの「注意」(5) が使用されます。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デフォルトの重大度レベル（重大度 4）でモジュール メッセージのログ ファイルへのロギングを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module
switch(config)#
```

次に、モジュール メッセージのログファイルへのロギングを停止する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging module
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
logging console	コンソールセッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。

logging server

システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定するには、**logging server** コマンドを使用します。設定を削除または変更するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server hostname [indicator [use-vrf name [facility {auth | authpriv | cron |
daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 |
lpr | mail | news | syslog | user | uucp}]]]
```

```
no logging server hostname [indicator [use-vrf name [facility {auth | authpriv | cron |
daemon | ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 |
lpr | mail | news | syslog | user | uucp}]]]
```

シンタックスの説明

<i>hostname</i>	リモート Syslog サーバのホスト名/IPv4/IPv6 アドレスです。
<i>indicator</i>	(任意) 0 : 緊急、1 : アラート、2 : クリティカル、3 : エラー、4 : 警告、5 : 注意、6 : 情報、7 : デバッグ
<i>use-vrf name</i>	(任意) VRF 名を指定します。デフォルトは management です。
<i>facility</i>	(任意) このサーバへの転送時に使用するファシリティを指定します。
<i>auth</i>	<i>auth</i> ファシリティを指定します。
<i>authpriv</i>	<i>authpriv</i> ファシリティを指定します。
<i>cron</i>	<i>Cron/at</i> ファシリティを指定します。
<i>daemon</i>	デーモン ファシリティを指定します。
<i>ftp</i>	ファイル転送システム ファシリティを指定します。
<i>kernel</i>	カーネル ファシリティを指定します。
<i>local0</i>	<i>local0</i> ファシリティを指定します。
<i>local1</i>	<i>local1</i> ファシリティを指定します。
<i>local2</i>	<i>local2</i> ファシリティを指定します。
<i>local3</i>	<i>local3</i> ファシリティを指定します。
<i>local4</i>	<i>local4</i> ファシリティを指定します。
<i>local5</i>	<i>local5</i> ファシリティを指定します。
<i>local6</i>	<i>local6</i> ファシリティを指定します。
<i>local7</i>	<i>local7</i> ファシリティを指定します。
<i>lpr</i>	<i>lpr</i> ファシリティを指定します。
<i>mail</i>	メール ファシリティを指定します。
<i>news</i>	USENET ニュース ファシリティを指定します。
<i>syslog</i>	<i>syslog</i> ファシリティを指定します。
<i>user</i>	ユーザ ファシリティを指定します。
<i>uucp</i>	UNIX-to-UNIX コピー システム ファシリティを指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割 network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.253
switch(config)#
```

次に、重大度レベル 5 以上の指定したホスト名のリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server syslogA 5
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging timestamp	システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定します。

logging timestamp

システム メッセージのタイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。デフォルトの単位に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

シンタックスの説明

microseconds	タイムスタンプはマイクロ秒単位です。
milliseconds	タイムスタンプはミリ秒単位です。
seconds	タイムスタンプは秒単位です (デフォルト)。

デフォルト

秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、システム メッセージのタイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp microseconds
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging logfile	ログ ファイルの内容を表示します。
logging console	コンソール セッションへのメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging event	インターフェイス イベントをロギングします。
logging level	定義済みファシリティからのメッセージと、指定した重大度以上のメッセージのロギングをイネーブルにします。
logging logfile	システム メッセージの保存に使用するログ ファイルを設定します。
logging module	ログ ファイルへのモジュール メッセージのロギングを開始します。
logging server	システム メッセージをロギングするためのリモート サーバを指定して設定します。

login virtual-service-blade

変更する Virtual Supervisor Module (VSM) の Cisco Nexus 1000V CLI にログインするには、**login virtual-service-blade** コマンドを使用します。

login virtual-service-blade

シンタックスの説明

<i>name</i>	既存の仮想サービスの名前を指定します。
<i>number</i>	新規または既存の VLAN の番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 3967 および 4048 ~ 4093 です。

デフォルト

なし

コマンドモード

EXEC モード

サポートされるユーザの役割

network-admin

コマンドの履歴

リリース	変更内容
4.0(4)SP1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、VSM-1 という VSM の Cisco Nexus 1000V CLI にログインする例を示します。

```
switch# login virtual-service-blade VSM-1
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
virtual-service-blade	指定した仮想サービスを作成して、そのサービスのコンフィギュレーションモードに切り替えます。
show virtual-service-blade-type summary	すべての仮想サービスの設定の要約をタイプ名ごとに表示します。
virtual-service-blade-type	この仮想サービスに追加するソフトウェア イメージ ファイルのタイプと名前を指定します。
description	仮想サービスに説明を追加します。
show virtual-service-blade name	仮想サービスに関する情報を表示します。
enable	仮想サービスのコンフィギュレーションを開始してイネーブルにします。
show virtual-service-blade	仮想サービス ブレードに関する情報を表示します。

